



高森町総合計画 後期基本計画

令和2年3月
熊本県 阿蘇郡 高森町



将来の子どもたちに 「誇れる高森町」を 目指して

これまでの10年間を振り返りますと、2011年の東日本大震災や2016年に発生した熊本地震、更には全国規模で生じている地球温暖化が原因とされる広域豪雨災害など、日常における災害への備え、自助・共助・公助といった官民一体となった対策の必要性について真に考えさせられました。

また、スマートフォンの急速な普及や、ITやIoT、AIといった情報技術産業においても大きな革新と進歩を遂げ、私たちの生活環境が一変するほどの変化を経験した10年でした。

令和という新しい時代を迎え、本格的な人口減少社会を迎える高森町において、地域産業の振興、関係交流人口の拡大、観光立町の推進、安全安心で利便性のある暮らしの向上、行財政の健全化など、取り組むべき課題は数多く、熊本地震からの創造的復興についても道半ばであります。このような中、その時代の潮流に的確に対応し、町民の皆様の様々なニーズに応えることができるまちづくりを進めていく必要があります

そこで本町では、平成27(2015)年度から、令和4(2022)年度までの8年間を計画期間とする「高森町総合計画」の後期基本計画(令和元(2019)年度から令和4(2022)年度まで)を策定しました。

本計画では、高森町のおかれている現状を踏まえ、「将来の子どもたちに誇れるまちづくり」の観点から町の課題を整理し、6つの基本目標の下に、目指すまちの姿を実現するための指針を策定しました。

本計画の実現に向けて、「スピードは最大の付加価値を生む」・「付加価値の最大化」を成長戦略のキーワードに、各取り組みを推進してまいりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました高森町議会をはじめ、町民の皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

高森町長 草村大成

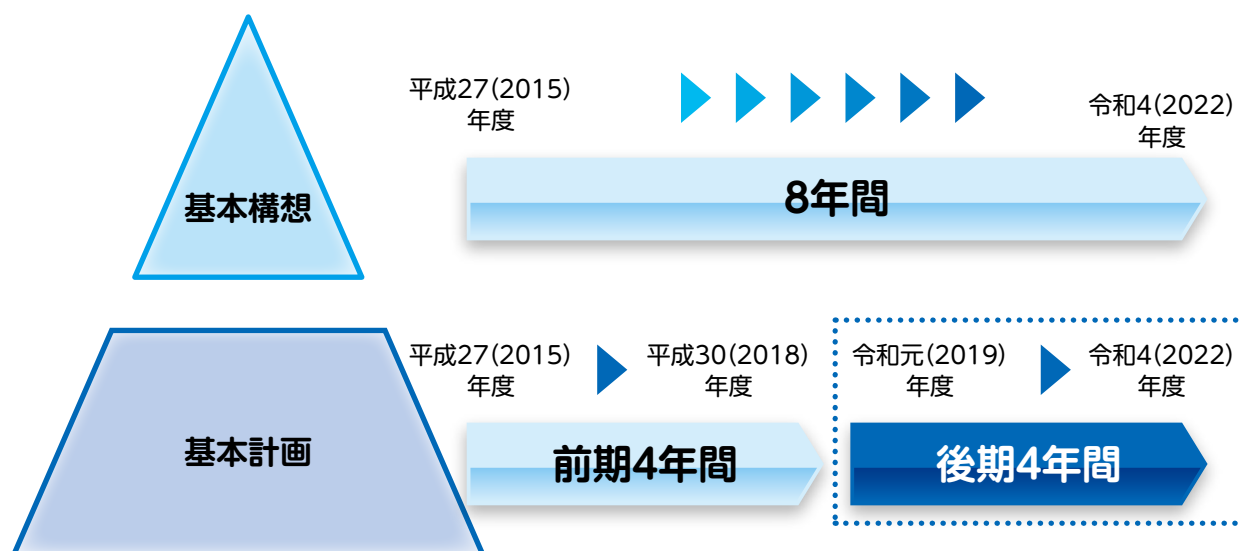
総合計画後期基本計画の策定にあたって

計画策定の趣旨

平成 27（2015）年度から令和 4（2022）年度までの 8 年間の計画期間とする高森町総合計画の基本構想における将来像の実現に向け、平成 30（2018）年度までの前期 4 年間の施策や個別事業の取り組みの検証等を通じて、令和元（2019）年度から 4 年間の施策の基本方針及び目標を定める「高森町総合計画後期基本計画」を策定しました。

目標年次

後期基本計画は、令和元（2019）年度を初年度とし、令和 4（2022）年度を目標年次とする 4 カ年計画とします。



計画策定の視点

後期基本計画は、次の視点を踏まえ策定しました。

- 高森町長政策集記載の各施策
- 各課・局が所管する計画に基づいた目標設定
- 前期基本計画の進捗状況

目標値の設定期間

「目指す目標」の各指標の「現状実績値」は令和元（2019）年 4 月、「目標値」は令和 5（2023）年 3 月にしています。



目次

基本目標1 観光立町を実現するための「町づくり」	1
目標1-1 選ばれる新たな観光地・観光資源の創出形成	1
目標1-2 地域団体・観光事業者等との連携強化及び組織の充実	3
目標1-3 官民連携の観光人材育成	4
目標1-4 景観の保全とリンクする新たな取り組み	5
目標1-5 国際観光の振興	7
目標1-6 観光旅行者・来町者の利便性向上	8
目標1-7 観光旅行者・来町者の安全確保	9
目標1-8 町民への理解促進と広報宣伝	10
基本目標2 町の情報化を基盤とする「町づくり」	11
目標2-1 「情報通信施設利用の今後のあり方に関する提言」による各施策の推進	11
目標2-2 住民視線での情報発信による「笑顔・声かけ」倍増への取り組み	12
目標2-3 情報基盤を使った新施策実施と対応できる現場力育成	13
目標2-4 画像・データ放送・情報相互交流による「交流人口」の創出	14
基本目標3 行財政改革・改善を実現する「町づくり」	15
目標3-1 (1) 町長政策集と他計画を整合した「高森町総合計画」(4カ年)の策定.....	15
目標3-1 (2) 急激な社会情勢の変化・交通情勢の変化に対応する道路網の見直し.....	16
目標3-2 (1) 住民視点に立った行政経営の実現.....	17
目標3-2 (2) 公共施設の適正な維持・管理.....	19
目標3-3 データ活用型スマートシティ取り組みの推進	20
目標3-4 組織パフォーマンス最大化のさらなる充実	21
目標3-5 「選ばれる・ふるさと納税制度」への転換(税収アップ)	23
基本目標4 地域産業が元気な「町づくり」	24
目標4-1 エンターテインメント業界との連携推進による新しい産業の創出	24
目標4-2 「(仮)活力ある産業を育む第2次プラン」の策定	25
目標4-3 南阿蘇高森農林畜産業の「地域ブランド化」の推進	26
目標4-4 農林畜産業での技術・誇りの継承と後継者育成の推進	27
目標4-5 AIやICT等の先進的技術を活用した農林畜産業の推進	28
目標4-6 産学官連携の推進	29
目標4-7 国の方針に沿った施策活用と農地有効活用の推進	30

目標 4- 8	南阿蘇たかもり林業の成長産業化.....	31
目標 4- 9	商工業者への「補助事業」取り組みの推進.....	32
目標 4-10	国選択無形民俗文化財「高森のにわか」による活力アップ.....	33
目標 4-11	民間企業を活用した農商連携での特産品創生.....	34

基本目標 5 誇りと夢と元気を生み出す教育による「町づくり」..... 35

目標 5- 1	3つの戦略！「町あげて」・「風に乗る」・「風を興（おこ）す」.....	35
目標 5- 2	新たな時代に求められる人材育成.....	36
目標 5- 3	命と人権を大切にす教育の充実.....	37
目標 5- 4	文化活動全般の充実.....	38
目標 5- 5	たかもり型公立図書館の設立.....	39
目標 5- 6	「町民総スポーツ社会」の充実.....	40

基本目標 6 健康いきいき&子育て楽しい「町づくり」..... 41

目標 6- 1	「わかりやすい・親しみやすい・支援しやすい体制」の構築.....	41
目標 6- 2	「第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）」 + 生活習慣病対策 + 他健康づくり施策の推進.....	42
目標 6- 3	各種検診・がん検診の受診率向上の推進と疾病予防・重症化予防への取り組み.....	43
目標 6- 4	地域医療確保対策による、安心して医療を受けられる体制の構築.....	45
目標 6- 5	高齢者が住み慣れた地域で健康に生活できる施策の推進.....	46
目標 6- 6	情報通信基盤を利用した外出支援・買い物支援体制の構築.....	47
目標 6- 7	きめ細やかな子育て支援のための施策の推進.....	48
目標 6- 8	ICT・AI を活用した子育て支援・健康づくりの電子化.....	49
目標 6- 9	民間と連携した保育園運営による子育て支援の実施.....	50
目標 6-10	地域一体型の子育て支援の充実化.....	51

資料編

1	用語解説.....	53
2	人口動向分析.....	59

基本目標1 観光立町を実現するための「町づくり」

目標1-1 選ばれる新たな観光地・観光資源の創出形成

強み・弱み

【強み】

- ジオパーク、世界農業遺産、阿蘇五岳や根子岳の景観といった阿蘇ブランドがあります。
- 空港から約30分でアクセスすることができます。
- 新たな観光地・観光資源として有名な、高森殿の杉や神社といったパワースポットがあります。
- 田楽、あか牛、地鶏、ヤマメなど豊かな食文化があります。
- 熊本地震からの南阿蘇鉄道の創造的復興を進める為に、高森町、熊本県・南阿蘇村と「南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画」を共同策定し、連携して事業に取り組んでいます。

【弱み】

- 熊本地震からの交通インフラ（国道325号線、JR豊肥本線、南阿蘇鉄道）の完全復旧には数年の時間が必要です。
- 高森駅は老朽化が進みバリアフリーに対応しておらず、またトロッコ列車を利用する観光客や大型バスの駐車場が少ないため、利用者の利便性の向上が必要です。
- 宿泊施設が少ないため、観光客が町に留まらない観光のスタイルとなっています。
- 町内を通る国道265号線は観光バスなどの大型車両が利用しづらく、特に冬季には凍結による交通障害が発生します。

めざまちの姿

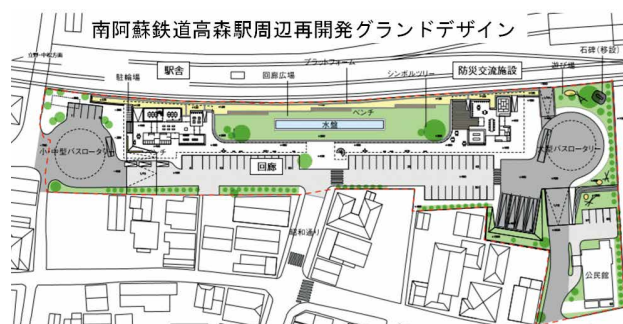
- 通過型観光から滞在型観光に転換が進み、滞在客が増え観光振興が活発化しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
日帰客数	793,320人	1,000,000人
宿泊客数	55,363人	80,000人
高森駅周辺の再開発の実施	未実施	実施済
管内における南阿蘇鉄道新駅の設置	未設置	設置済
新広域道路交通計画及び重要物流道路・補完路への指定	未指定	指定

具体的な取組み

1. 「南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画」とリンクした町づくり施策の実施
2. 南阿蘇鉄道「都市圏アクセス 30 分台構想（JR 豊肥本線への直接乗入れ）」実現に向けた熊本県との連携強化
3. 国道 325 号・265 号線の W ネットワーク道路の新広域道路交通計画及び重要物流道路・補完路への指定を目標とした、「新規道路整備計画策定」への着手による阿蘇地域南北軸アクセス（〔仮〕中九州横断道路、阿蘇医療センター等）改善へ向けた取組み
4. くまもとアートポリスプロジェクトによる、定住、観光、防災の拠点となる「南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発」の実施
5. 住民、国内外の観光客、他利用者ニーズに応じたわかりやすい玄関口としての「新高森駅周辺」整備の実施
6. 湧水トンネル公園周辺における南阿蘇鉄道新駅の設置と住民提案型による高森湧水トンネル公園リニューアルによる白川水源等周辺観光地等と連携した南郷谷広域観光の推進
7. 「道の駅」（熊本地震経験に対応可能な防災拠点化及び直売所等併設）の設置・認定による選ばれる町づくり
8. 体験、癒し、健康増進等の多様な観光旅行分野の開拓や滞在型トレッキングツアーの造成、各競技大会の創設、アニメを活用した観光振興、映画等の誘致等による観光客から選ばれる町づくり



目標1-2 地域団体・観光事業者等との連携強化及び組織の充実

強み・弱み

【強み】

- 南阿蘇鉄道の終着駅（始発駅）です。
- 公共施設において無料 Wi-Fi の整備が進められています。
- まちづくり DMO、高森町観光協会や南阿蘇ビジターセンターがあります。
- 観光協会主体の新たな観光事業が活発に行われています。

【弱み】

- 町内の観光案内所などの場所が分かりにくく、外国人向けの案内板が不足しています。
- 現状では、特産品、土産物が少なく、観光団体・事業者間の連携が強くありません。
- 地域団体・観光事業者等において観光振興イベント等に使用する自主財源に不安を抱えています。

めざまちの姿

- 地域団体・観光事業者、町内キーパーソンの組織連携が進み、自主的な観光施策が実施されています。
- 観光団体が自主財源を確保し観光事業が組織的に行われています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
収益性を持った地域団体の組織化数	0	1
収益性を持った観光関連団体の組織化数	0	1

具体的な取組み

- 1-1 観光協会と一般社団法人 TAKARA MORI との統合推進による観光事業者の連携強化
- 1-2 観光事業者等が取り組む新たな観光商品・メニュー開発等を支援する [仮] 観光地ビジネス創出総合支援事業の新設





目標 1 - 3 官民連携の観光人材育成

強み・弱み

【強み】

- 地元と地域活性化グループが活発に活動しています。
- 各地域や集落で観光関連団体のメンバーが拡がりつつあります。
- 体験型観光メニューが地域や個人で多く提供されています。

【弱み】

- 国内外からの観光客を快く受け入れるための、おもてなし力の向上が必要です。
- 各観光関連団体でリーダーシップをとる人材が不足しています。

めざすまちの姿

- 飲食店、宿、ツーリズム関係者などがおもてなしに関する勉強を重ね、来訪者を温かく迎えています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
観光コーディネーター数	2人	40人

※観光コーディネーター：観光客と町をつなぐため、地域内の調整役であり対外的な窓口になる人材

具体的な取組み

- 1-1 観光団体と連携した地域のおもてなし力を高める人材育成の実施
- 1-2 イベント等を中心に活動する地域おこし協力隊の受入・育成



目標1-4 景観の保全とリンクする新たな取り組み

強み・弱み

【強み】

- 「日本で最も美しい村連合加盟村」の認定を受けています。
- 阿蘇くじゅう国立公園内の草原をはじめとする阿蘇五岳を望む豊かな自然があります。
- 九十九曲がり阿蘇くじゅう国立公園特別地域に指定されています。
- 36トン/分の湧水量を誇る湧水トンネル公園のほか阿蘇の地下水が、生活水、農業用水として利用されています。

【弱み】

- 通年を通しての名所が少なく、九十九曲がりなど利活用が進んでいません。
- 九十九曲がりは桜の開花時期以外は利用されていません。
- 日本で最も美しい村連合の取り組みがPRできていません。
- 一部の地域では安定した生活水の供給ができていません。
- 今後の老朽空き家の増加が懸念されます。

めざすまちの姿

- 「日本で最も美しい村連合」のコンセプトに基づいた将来にわたっての美しい地域づくりが行われています。
- 阿蘇くじゅう国立公園地域への矜持により、美しい景観が保たれています。
- 安心・安全な生活水の供給による、より良い生活環境が整備されています。
- 倒壊の恐れがある老朽空き家の撤去が進んでいます。

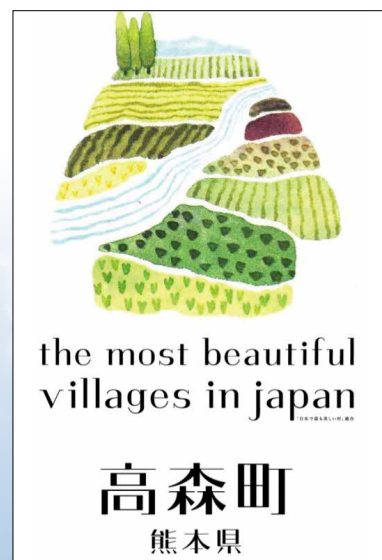
めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
「日本で最も美しい村」連合への加盟更新	未更新	更新
九十九曲がり利活用イベント実施	年1回	年2回
景観保全要領（ガイドライン）の策定による景観保全	未策定	策定済
新たな配水池の整備（前原地区）	未整備	整備済
民間事業者との連携協定による通学路に面した危険老朽空き家の撤去	0棟	5棟



具体的な取組み

1. 「日本で最も美しい村」に関するイベント、広報活動の実施
2. 阿蘇郡市世界文化遺産登録事業推進協議会と連携した世界文化遺産登録への取り組み推進
3. 新たに「九十九曲がり」を活用するための協議会設置と利活用施策の実施
4. 民間事業者と連携した町内の老朽危険建物の解体・撤去の実施
5. 高森町景観条例に基づいたガイドライン策定による景観保全対応の実施



目標1-5 国際観光の振興

強み・弱み

【強み】

- 外国人が足を運びたい観光資源があります。
- 阿蘇地域に外国人観光客が年間 38 万人訪れています。
- くまもと国際マンガ CAMP in阿蘇高森が開催されており、国際観光の振興への機運が高まっています。

【弱み】

- 多言語案内表示や外国語対応スタッフなど外国人観光客の受入れ体制が整っていません。

めざまちの姿

- 高森町を訪れる外国人が高森ファンとなっています。
- 外国人来訪者の増加により、町民の国際感覚が少しずつ育っています。
- 多言語案内表示がいろいろな形で進み、外国語対応スタッフにより外国人観光客をもてなします。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
外国人観光客数	24,543人	30,000人
多言語観光案内が可能な観光施設数	0か所	3か所以上

具体的な取組み

1. 外国人旅行者受入基盤整備事業補助金の新設による外国人観光客受入れ体制整備の推進
2. 情報提供促進措置ガイドライン策定による多言語案内表示等の設置及び、観光事業者等に対する情報提供の実施



目標 1 - 6 観光旅行者・来町者の利便性向上

強み・弱み

【強み】

- 全国的にも有名な「阿蘇」地域に位置しています。
- 気候、自然環境、水資源に恵まれています。
- 象徴的な景観（根子岳）があります。

【弱み】

- 熊本地震による交通インフラ被害が完全に復旧していません。
- 南阿蘇鉄道や高森町観光交流センターから観光地への移動手手段の自由度が低い（二次交通が少ない）です。

めざすまちの姿

- 町内観光スポットの受入環境が整備され、来訪者の利便性や満足度が向上したことで、高森町のイメージがアップしています。
- 高森駅が交通結節拠点としてユニバーサルデザインで整備・機能強化され、他公共交通機関との連携による、二次公共交通機関が充実しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
観光施設に「満足したと感じた」観光客の割合	89.3%	90%
高森駅を拠点とした長距離バスダイヤの設定（二次交通強化）	0路線	2路線

具体的な取組み

1. 観光施設整備事業補助金制度の新設による町内観光スポットの受入環境整備の実施
2. 高齢者、障がい者等の配慮を要する観光旅行者及び来町者に優しい来町手段の整備





目標 1 - 7 観光旅行者・来町者の安全確保

強み・弱み

【強み】

- 防災公園が整備中です。
- 車中泊に対応する広い駐車場があります。
- 地元消防団による防災活動・設備が充実しています。
- たかもりポイントチャンネル（※以降たかもりポイントチャンネルは「TPC」とします。）やホームページ、SNS で情報発信できる体制が整っています。

【弱み】

- 災害時の観光客に対する情報提供の周知方法が不十分です。
- 外国人観光客への対応が不十分です。

めざすまちの姿

- 観光客は誰でも、自然災害や火災等の際に、安全を確保するための正しい、的確な情報を入手することができます。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
オープンデータの活用による町内避難場所・施設の公表	未実施	実施済

具体的な取組み

1. 災害等の発生状況に関する緊急情報をオープンデータと連携した、TPC やホームページ、公式 SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラム）、防災行政無線等をフル活用することで来町者へ提供する。

目標 1 - 8 町民への理解促進と広報宣伝

強み・弱み

【強み】

- TPC により、正確な情報を発信・共有することができます。
- 広報たかもり及び公式ホームページ、公式 SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラム）による情報発信を行っています。

【弱み】

- 高森から外部に向けての情報発信力が課題です。

めざすまちの姿

- 観光立町に関する施策や行事、イベントについて、官民連携による TPC を通じた情報共有が随時行われています。
- 町民自らが、TPC から得る情報を SNS や口コミ等で拡散し、町民一人一人が町の広報や宣伝を行っています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
TPC での町観光イベント等の放送回数	月2回程度	毎週1回
WEB サイト及び SNS での情報発信回数	イベント時適宜	週2回以上

具体的な取組み

1. TPC による「わかりやすい広報」の実施（ホームページ、公式 SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラム連動）



基本目標2 町の情報化を基盤とする「町づくり」

目標2-1 「情報通信施設利用の今後のあり方に関する提言」による各施策の推進

強み・弱み

【強み】

- 町内全域に光通信網（情報通信基盤施設）が整備されています。
- 民間事業者による光通信網を借り受け、行政情報の提供や ICT 教育等を推進しています。
- 光通信網をフル活用した TPC による正しい情報の発信と共有を行っています。

【弱み】

- 民間事業者の光通信網の使用料に大きな予算を投じています。
- 人口減少社会の進行により、現在町が負担している情報通信施設使用料の利用者負担が生じる場合があります。

めざすまちの姿

- 整備利点を最大限に活用し「情報共有・共感・スマートシティ」のまちになっています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
情報通信施設利用契約率（基本サービス）	97.5%	98.0%

※基本サービス=行政情報サービス（TPC）＋一般テレビ放送（地デジ）再送信サービス

具体的な取組み

1. テレビを使った情報通信の双方向化整備の推進
2. 人口減少化・超高齢化の到来に対応する光通信網を活用した高森型住民サービスの創出
3. 防災行政無線のデジタル化整備に合わせた光通信網活用による住民サービスの創出
4. 住民参加型による「情報通信施設利用のあり方検討」の継続
5. 情報通信基盤施設利用の基本サービス受信利用料に関し、「将来のあり方検討」を継続

目標 2- 2 住民視線での情報発信による「笑顔・声かけ」倍増への取り組み

強み・弱み

【強み】

- 約 97%の世帯が TPC を視聴可能な状況となっています。
- 地域の話題や幼・保・小・中・高の話題にまで幅広く情報を発信しています。
- 取材から放送までを職員が行い住民に密着した番組を提供しています。

【弱み】

- TPC により継続して行政情報を発信していますが、情報発信について明確な基準が定められていません。
- スタッフの安定的な確保が課題です。

めざすまちの姿

- 住民目線、住民参加型の情報を発信する体制が確立し、引き続き地域や学校等の多岐に亘る話題が数多く放送され、TPC が住民に広く親しまれています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
住民参加の企画番組制作回数	不定期 (週1回程度)	週2回
TPC 情報発信マニュアルの制定	未策定	策定済

具体的な取組み

1. 各課・局へ配置する「TPC 情報発信事務担当者」を中心に、各課・局において最低 8 回／月の情報発信を実施（編集用 PC 及びアプリ導入により編集体制を強化）
2. TPC 情報発信マニュアルの策定による、行政情報発信方法を基準化
3. 「わかりやすさ・笑顔あふれる発信」による TPC 放送を推進
4. TPC での住民目線による情報発信の推進
5. TPC での地域・住民参加による情報発信の推進

目標2-3 情報基盤を使った新施策実施と対応できる現場力育成

強み・弱み

【強み】

- 町内全域に光通信網（情報通信基盤施設）が整備されています。
- 民間事業者による光通信網運営方式を借り受け、行政情報の提供や ICT 教育等を推進しています。
- 光通信網をフル活用した TPC による正しい情報の発信と共有を行っています。

【弱み】

- TPC、ICT 教育分野以外への施策活用が進んでいません。
- 専門職がないため、技術的な経験が不足しています。

めざすまちの姿

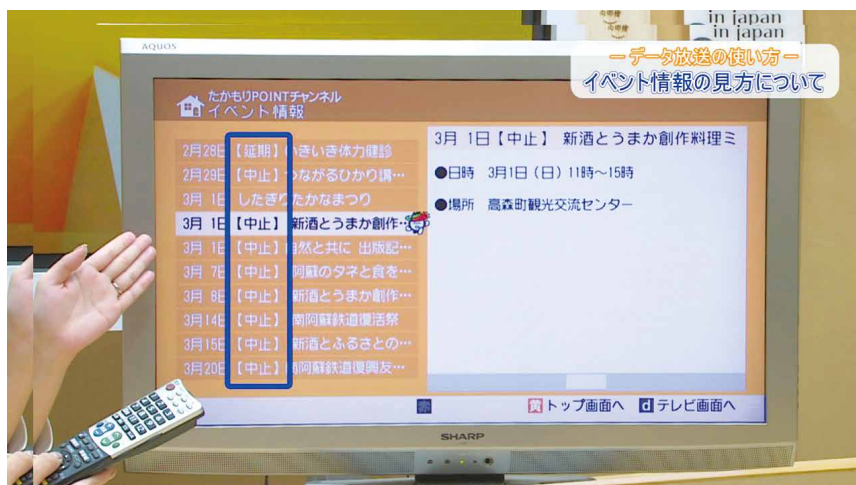
- 情報通信技術に精通した職員が配置され、情報基盤を活用し、TPC データ放送を中心に行政サービスがデジタル化しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
TPC データ放送掲載の行政・暮らし等の情報更新の強化（全課・局）	更新時適宜	月1回以上
専門職の配置率	0人	1人

具体的な取組み

1. 情報基盤を活用した TPC データ放送等行政サービスデジタル化の推進
2. 情報基盤・IoT・AI・電気技術等に精通する専門職の配置



目標 2 - 4 画像・データ放送・情報相互交流による「交流人口」の創出

強み・弱み

【強み】

- TPC の番組を通じ交流人口を生み出す「設備・環境」が整っています。
- 番組を取材から放送まで職員が行うノウハウを有し、全国の自治体でもほとんど例がありません。

【弱み】

- TPC の番組は町内でしか視聴できないので、外部に向けた情報発信力がありません。

めざすまちの姿

- 他自治体のケーブルテレビ局等との情報相互交流協定が締結され、映像を通じた地域間交流人口が創出されています。
- TPC の番組がユーチューブ等で外部に発信されています（個人情報特定される番組は除く）。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
他のケーブルテレビ局等との情報相互交流協定の締結数	0	2
ユーチューブ等による情報発信	0回	月1回

具体的な取組み

1. 他市町村との協定等の締結による光通信網を活用した交流人口創出の推進



基本目標 3 行財政改革・改善を実現する「町づくり」

目標 3-1 (1) 町長政策集と他計画を整合した「高森町総合計画」(4カ年)の策定

強み・弱み

【強み】

- 情報公開が進んでおり、行財政改革・改善を積極的に行っています。
- 各課・局において所管する各種計画等にもとづいた PDCA サイクルによる行政運営が図られています。

【弱み】

- 人口減少化社会の到来を見据え、各課、局が所管する諸計画等に掲げられた目標を達成する為の上位計画として町総合計画が必要です。

めざすまちの姿

- 高森町総合計画後期基本計画に基づいた「わかりやすく・スピード感・現場力ある」行政運営と行政サービスが向上しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
高森町総合計画後期基本計画の策定	未策定	策定済

具体的な取組み

1. 計画期間中の PDCA サイクルによる確実な執行と公表

目標3-1 (2) 急激な社会情勢の変化・交通情勢の変化に対応する道路網の見直し

強み・弱み

【強み】

- 非常時に代替となる道路が多くあります。

【弱み】

- 町道の機能を満足していない道路が多数存在します。
- 維持管理費が多くかかり、管理が行き届きません。

めざすまちの姿

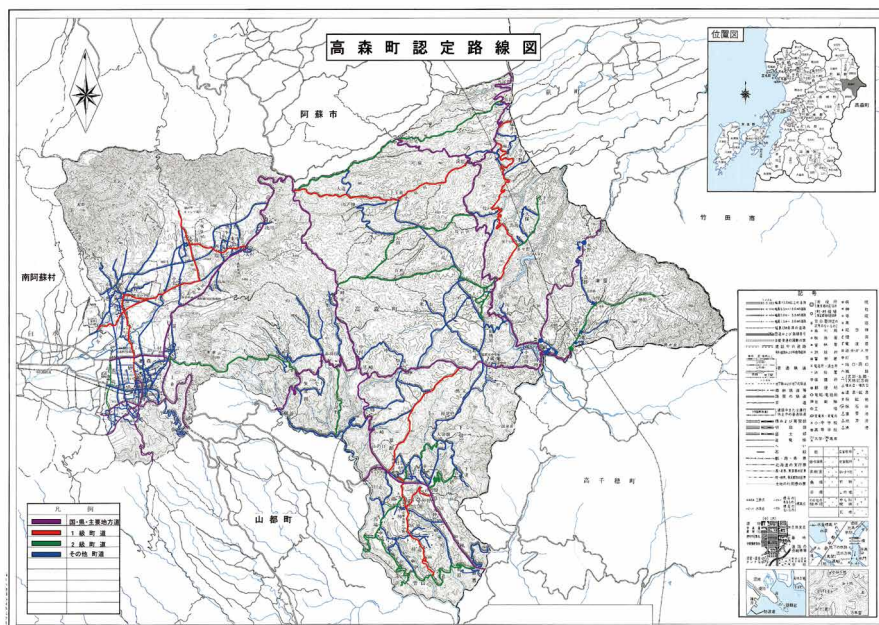
- 安全で走りやすい道路網が形成されています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
道路維持管理に関する町民の満足度	約40%	約60%以上

具体的な取組み

1. 道路網再編計画の策定による、急激な社会情勢の変化・交通情勢の変化に対する道路網見直しの実施



目標3-2(1) 住民視点に立った行政経営の実現

強み・弱み

【強み】

- TPC を活用し、行政情報をわかりやすくしています。
- 広報たかもりをわかりやすく編集しています。
- 税・料の徴収強化のため「収納対策プロジェクトチーム」活動を続けています。
- 熊本県内でも比較的納税意識が高く、町県民税の納税率は上位にあります。
- 税情報電子化の推進や専門家への委託により、適正かつ確実な課税に努めています。

【弱み】

- 利便性の高いサービスが不足しています。
- 増加傾向にある外国人住民に対する案内が不十分です。
- 高度な税務専門知識を有する人材が不足しています。
- 少子高齢化により過疎化が進行し、地域の人材のみで地域機能を維持していくことが難しくなっています。

めざすまちの姿

- 住民のライフスタイルに沿った相談しやすい行政窓口があります。
- 住民の納税意識が高まり、納期内納付を行う納税者が増えています。
- 生産人口の減少や、経済情勢の変化を見据え、税制改正等に伴う動向を注視し、税源のより一層的確な把握と課税の適正化に努めています。
- 地域機能の維持のために地域おこし協力隊を、また、地域に詳しい人材を集落支援員として配置することで、よりきめ細やかな住民サービスがなされています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
地域おこし協力隊員数	14人	15人
集落支援員数(地域福祉・健康推進員)	0人	7人
防災行政無線デジタル化の普及率	0%	100%
ワンストップ窓口の組織的な運用体制の構築	未整備	整備～運用済み
地籍調査事業現地調査進捗率	92%	96%
町税の収納率(現年度)	97.93%	98.37%

具体的な取組み

1. スマートな行政サービス（各種行政証明等）の提供を実現する利便性の高い「総合窓口」の導入
2. 多様化する住民ニーズに対応するための「地域おこし協力隊制度」や、買い物支援・高齢者困りごと支援を実現できる「集落支援員制度」の積極的な活用
3. 親しみやすく・わかりやすい高森町役場の更なる推進のための各課・局対応の見直し
4. 国の緊急防災・減災事業債をフル活用しての防災行政無線デジタル化整備に伴う「地域情報格差」の改善（デジタル個別受信機の全戸設置）



目標3-2(2) 公共施設の適正な維持・管理

強み・弱み

【強み】

- 各地区の施設が地域住民のコミュニティ活動及び健康づくりの場として利用されています。
- 低料金で施設が利用できるため、定期的な利用や利用者の増加が見込まれます。

【弱み】

- 老朽化により雨漏りや修繕や大規模改修が必要な施設があります。
- 修理・修繕により経費が年々増加傾向にあります。

めざすまちの姿

- 適正な公共施設の運営・管理を行うことにより、安定した健全財政と公共施設の有効活用を実現しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
全公共施設(※)の個別計画策定による施設運営	未策定	策定済

※延べ床面積 200㎡以上の公共施設

具体的な取組み

1. 公共施設個別計画の策定(公営住宅を除く)による長期的な視点を持った施設運営(公共施設の更新・長寿命化・集約化・撤去や廃止等の必要な対策)



目標3-3 データ活用型スマートシティ取り組みの推進

強み・弱み

【強み】

- 町内全域に光通信網（情報通信基盤施設）が整備されています。（再掲）
- 高森町役場庁舎内及び高森総合センター施設内に Wi-Fi 環境が整備されています。

【弱み】

- 多様化する住民ニーズに対し専門人材不足が深刻です。
- ICT、IoT、AI 等の導入を検討するにあたっての計画がありません。

めざまちの姿

- 高森町地域情報化計画が策定され、町が目指すべきスマートシティへの取り組みが明確になっています。
- 行政への ICT 等の導入が進み、役場に訪れた町民が自動化された端末を使った手続きを行っています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
高森町地域情報化計画の策定	未策定	策定済
業務（住民サービス）の ICT・IoT/AI 化の数又は情報化施策の実施数	0	3

具体的な取組み

1. ICT/IoT/AI 等を活用することによる行政サービスのスリム化の推進
2. RPA による自治体業務の省力化を推進
3. 国が選定する「ベンチャー企業のスマートシティ参画支援」自治体公募への取り組み推進
4. AI チャットボットによる行政・地域の問合せ・手続き等の自動化の推進

目標3-4 組織パフォーマンス最大化のさらなる充実

強み・弱み

【強み】

- 職場全体での働き方改革の気運が高まっています。
- 職員からの政策提案、住民サービス提案が行われています。
- 国・県との人事交流等による情報収集等が盛んです。
- 役場と同じサービスを両出張所でも受けることができます。

【弱み】

- 職員年齢構成に大きな偏りがあります。
- 多様化する住民ニーズと業務多様化に対し専門職員が不足しているばかりでなく職員の数は減少しています。
- 女性の職場環境にまだまだ改善が必要です。
- 少子高齢化により、特に野尻、草部地域の過疎化が進行しています。

めざまちの姿

- 住民サービスを提供する職員が働きやすく、それぞれの立場の職員が最大限にパフォーマンスを発揮する行政体系となっています。
- 女性活躍推進法に基づき、「すべての女性が輝く社会」の実現をより一層確かなものにしていきます。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
働きがいのある職場環境の職員割合	45%	60%



具体的な取組み

1. 働き方改革関連法に基づく「高森町働き方改革推進プログラム」策定によるワークライフバランスの向上と業務の効率化
2. 職員の情報リテラシー向上（情報の取扱いに関する知識と能力アップ）に向けた取組みの実施
3. 職員による役職、課・局にとられない横断的な政策提案制度の実施
4. 行政組織の再編・改善による組織パフォーマンス最大化の実現
5. 社会人・専門職等の採用による人材のダイバーシティ化を実行
6. 国（各省庁）からの出向・熊本県との人事交流・民間企業等との交流（地域おこし企業人制度）を推進
7. 人口減少化時代における「持続可能な地域実情に沿った出張所」のあり方の検討と、これまでに行った各出張所利用時間調査結果に基づく開庁時間短縮の実行



目標3-5 「選ばれる・ふるさと納税制度」への転換（税収アップ）

強み・弱み

【強み】

- 高森町ならではの返礼品があり、魅力的な商材があります。
- 自然が豊かであるため、自然を活かした体験イベントを企画できます。
- 飲食店・宿泊施設との連携により、食事・宿泊をセットにした返礼品を企画できます。



【弱み】

- 制度を知らない地域事業者がいます。
- 地域商材発掘・業務代行運用・広告運用を行える人材が不足しています。
- 農産物を返礼品として取り扱っていません。

めざすまちの姿

- 町の税収増加、代行業者の経営安定、返礼品事業者の収入が増加し、新規販路が開拓されています。
- ふるさと納税寄付の増加により、行政は財政増収、事業者は代行業務による安定収益、生産者は町内産品が返礼品で選ばれることで所得や新販路開拓の機会創出といった「3方良し」のメリット創出が実現されています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
提案型ふるさと納税返礼品の数	1品目	5品目
町内返礼品事業者提携事業所数	5事業所	8事業所
ふるさと納税業務代行の町内事業所等への移行	未実施	実施済
ふるさと納税による累計寄付額	80,000,000円	500,000,000円

具体的な取組み

1. 提案型による返礼品の決定（売れる商材の掘り起こし＋新企画による商品構成の磨き上げの実施）
2. 寄附額5億円以上を受け入れる自治体の実証事例への取り組み転換
3. ふるさと納税運営業務を高森町直営から町内事業所、団体等へ運営を移行（委託）



基本目標 4 地域産業が元気な「町づくり」

目標 4-1 エンターテインメント業界との連携推進による新しい産業の創出

強み・弱み

【強み】

- 海外の漫画クリエイターに対し訴求力のある創作環境（自然環境、情報通信網）が整っています。
- 海外の漫画クリエイターが本町へ訪れる際の交通インフラの復旧と整備が進み、空港等から公共交通でのアクセス性がより向上しています。
- 都会に比べてリビングコストを低減した生活ができます。

【弱み】

- 海外漫画クリエイターの招致や、エンターテインメント業界と連携するノウハウや、情報発信力に欠けています。

めざすまちの姿

- 漫画家を目指すクリエイターが高森町に居住し、制作活動を開始し、漫画を通じて高森町の情報が国内外へ発信され、漫画の聖地として認知が進んでいます。
- 漫画関連の仕事が生まれ、地域の雇用を生み出しています。
- 漫画関連の仕事に関わる外国人が移住しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
事業実施に必要な協定の締結数	0	2
海外クリエイターの活動拠点の整備	未整備	整備済
漫画クリエイターの移住者数	0人	10人

具体的な取組み

1. エンターテインメント業界との連携に必要な協定を締結し、産学官連携による既存地域資源と情報通信基盤施設をフル活用した漫画による「人・社会・ビジネス創造」への取り組みを推進（漫画クリエイターによる「MADE IN たかもり漫画」の制作、漫画関連制作業務（映画絵コンテ、スクリーニング等）の産業化支援による新たな税収創出、漫画編集部機能の誘致への取り組み、漫画編集者の移住受入れ）
2. （仮称）たかもり漫画アカデミー構想実現及び誘致のための産官学連携による町内既存施設の活用と、国「企業版ふるさと納税」制度認定の推進
3. 「くまもと国際漫画 CAMP」の継続開催による世界の漫画クリエイターの移住定住支援の実施
4. エンターテインメント業界との連携による海外インバウンド増加への取り組み（多言語対策・漫画による観光情報発信・漫画を活用した案内版の整備等）

目標 4- 2 「(仮) 活力ある産業を育む第 2 次プラン」の策定

強み・弱み

【強み】

- 広大な耕地と国内有数の牧野及び水源涵養を基盤とした農林畜産業を行っています。
- 循環型農業により多様な農産物を生産しています。

【弱み】

- 近年では後継者不足や、高齢化により基幹的農林畜産業従事者数は減少傾向です。

めざすまちの姿

- 第 2 次高森町新農業プランにより、21 世紀型生業と営為の農村地域をめざして、新たな食農産業の創造と交流に関する農業施策が活発に行われています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019 年 4 月)	目標値 (2023 年 3 月)
「高森町新農業プラン (第 2 次)」の策定	未策定	策定済

具体的な取組み

1. 稼げる・魅力ある自立した農業を実現する「高森モデル」を実現する為の「高森町新農業プラン」との整合を実施



目標4-3 南阿蘇たかもり農林畜産業の「地域ブランド化」の推進

強み・弱み

【強み】

- 世界農業遺産に認定された阿蘇地域の価値である草原を活用した肉用牛の放牧及び有機（野草）堆肥を活用した農業が推進されています。
- 伝統的農産物（みさを大豆・鶴の子芋・ひごむらさき等）の継承と生産が続けられています。

【弱み】

- 「阿蘇」というネームバリューがあるにも関わらず、農林畜産物の地名度が低いです。
- 様々な農林畜産物が生産されていますが、加工品はあまり生産されていません。

めざすまちの姿

- 地域ブランド化が推進され、安心・安全な農林畜産物が消費者に定着しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
ブランド化協議会の設立	未実施	実施済
加工品（特産品）の開発及び販路獲得数	0品目	3品目
有機堆肥の生産・販売量	1,300 t	1,500 t
放牧団体（牧野組合）の維持	11団体	維持

具体的な取組み

1. 「稼得力」を目的とした農林畜産物の農業生産工程管理への取り組みや、安心・安全な農林畜産物の情報発信によるPRと、（仮）高森町農林畜産業ブランド化協議会設置による農林畜産物のブランド化及び民間との連携協定に基づく産品開発を推進
2. アグリセンター堆肥活用による有機農業の推進強化（野草堆肥利用拡大による高森農産品への付加価値の向上）
3. 放牧活用型畜産農業の推進（世界農業遺産に認定された阿蘇地域の価値である草原を活用した肉用牛の放牧推進）

目標4-4 農林畜産業での技術・誇りの継承と後継者育成の推進

強み・弱み

【強み】

- 「農業師匠（※1）」が、新規農業研修生の受入を行い、新規就農者を確保しています。
（※1）就農希望者や研修生など若者を育成する指導農家
- 阿蘇の原野に自生する茅は貴重な資源であり、日本一の面積を誇ります。その茅で屋根を葺く伝統的な茅葺工法が継承されています。
- 集落営農組織が設立され、農地集積により、地域の農地が守られています。

【弱み】

- 近年では後継者不足や、高齢化により基幹的農林業従事者数は減少傾向です。

めざすまちの姿

- 官民が連携し、農業の担い手の支援を実施しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
認定農業者数	93 経営体	100 経営体
認定新規就農者数（※2）	4 戸	5 戸
農業師匠数	8 戸	15 戸
新規農業研修生受入農家協議会	未設置	設置
集落営農・法人設立の推進	10 法人	12 法人
国認定制度の情報収集及び推進	認定数 1	認定数 2

（※2）新たに農業経営を営もうとする青年等で、青年等就農計画を市町村が認定した者。農業経営を開始して一定の期間（5年）を経過しない者を含みます。

具体的な取組み

1. 「認定農業者の会」の推進と現行取り組みの継続（認定農業者数増加対策継続）
2. 新規就農者及び新規農業研修生受け入れ体制の整備（新規農業研修生受入農家協議会設置）
3. 集落営農の組織化・法人化の支援（設立補助）の実施
4. 農林畜産業への矜持力を育む「誇りの継承」の1つとしての「国認定」等を目指す（草部地区用水路の世界かんがい施設遺産等への認定）

目標 4- 5 AI や ICT 等の先進的技術を活用した農林畜産業の推進

強み・弱み

【強み】

- 町内全域に光通信網（情報通信基盤施設）が整備されています。

【弱み】

- 農林畜産業者に、AI や ICT 等が浸透していません。
- 先進的技術は機器導入に大きなコストが伴います。

めざまちの姿

- 農林業者の AI や ICT 等に対する意識が醸成され、先進的技術を活用した農業経営体が増加をしています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
スマート農業取組農家数	3戸	5戸

具体的な取組み

1. 農林畜産業者の経営効率の向上や、労力、コストの低減に貢献するスマート農業（AI・ICT等を活用する農業）と鳥獣被害防止対策の推進



目標 4-6 産学官連携の推進

強み・弱み

【強み】

- 施設園芸・露地野菜、花卉、米、畜産といった農業生産が盛んです。
- 農業者と飲食店が連携し、地元農産物を活用したメニューが開発され、イベントによる PR を実施しています。
- 地域の農業後継者が、地元小中学校と連携し、食育に取り組んでいます。

【弱み】

- 冬場の気候が厳しいため、年間を通した農産物の生産・提供が困難です。

めざすまちの姿

- 高森町で生産された農林畜産品や、開発された加工品が、地元商店や直売所等による多様な販売チャンネルで取り扱われています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
直売所整備等検討委員会の設置	未設置	設置
加工品（特産品）の開発及び販路獲得数（再掲）	未実施	実施済
加工品（特産品）の開発数（再掲）	0品目	3品目

具体的な取組み

1. 道の駅検討委員会と施策を共同化した直売所整備の推進
2. 学校と農家（青年農業者）が連携した食育を推進
3. 日本型直接支払制度を活用した都市消費者との交流や、農家民泊、市民・観光農園といった都市農村交流の取り組みの推進
4. 各種団体・地元商店、飲食店による高森産農林畜産物取り扱いの推進

目標4-7 国の方針に沿った施策活用と農地有効活用の推進

強み・弱み

【強み】

- 農家の集落営農組織や農地集積への関心が高まっています。
- 日本型直接支払制度を活用し、地域で農地の保全と農村環境形成に努めています。

【弱み】

- 少子高齢化や担い手不足、鳥獣害被害により耕作放棄地が増加しています。
- 集落営農組織の不足と農地の基盤整備が進んでいません。

めざすまちの姿

- 国の方針に沿った施策活用により集落営農組織を中心とした農地の団地化が完了しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
人・農地プラン（※1）における中心経営体数（※2）	52	80
担い手（※3）の農地集積率	18.5%	30.0%

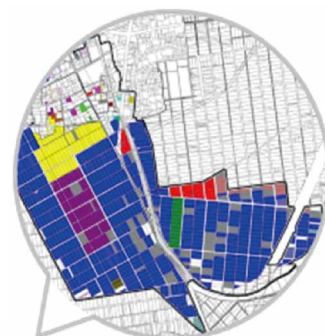
（※1）地域の農業を発展させていくため、人と農地の問題を集落・地域において徹底的な話し合いを行い、プランの作成（見直し）に反映しています。

（※2）地域農業の中心となる農業経営体。

（※3）認定農業者、認定新規就農者、基本構想水準到達者、集落営農組織等。

具体的な取組み

1. 農地中間管理機構（農地バンク）と高森町人・農地プランが連携し、地域の中心経営体や、農地の借り受け希望者に対して農地集積を推進
2. 農業施設等（用水路、ため池、ほ場）の基盤整備実施による農地維持と農業経営拡大の推進
3. 日本型直接支払制度等の国補助事業の積極的取り組みによる農業が持つ多面的機能の発揮、保全活動の推進



目標 4- 8 南阿蘇たかもり林業の成長産業化

強み・弱み

【強み】

- 森林面積 13,294ha を有しています。
- 阿蘇地域にしか存在しない希少品種の阿蘇南郷檜が約 15,000 m³存在しています。
- 2019 年に創設された森林環境贈与税により、森林整備やその促進に関する財源確保が可能です。

【弱み】

- 林業従事者の高齢化や後継者不足により、森林の維持管理が危ぶまれています。

めざすまちな姿

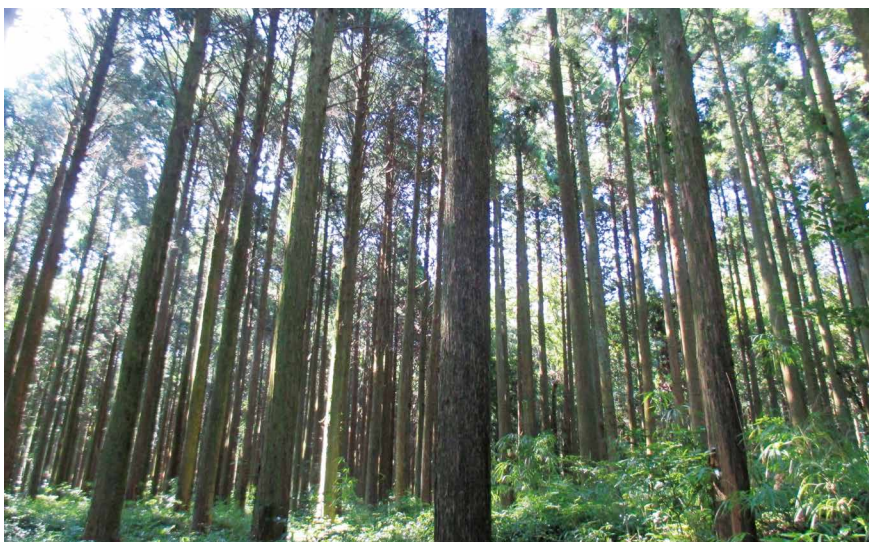
- 森林環境贈与税を活用し、森林の集約化が進められています。
- 阿蘇南郷檜のブランド化が進み、認知度が向上し、林業従事者の意欲が向上しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
阿蘇南郷檜の官民建築物への利用	2 施設	4 施設

具体的な取組み

1. 森林経営管理制度による林業の成長産業化への取り組みと森林資源の適切な管理に向けての体制構築
2. 森林環境贈与税を財源とした、阿蘇南郷檜ブランド化への取り組みと林業担い手や林業団体への集約化への取り組みによる森林保全の推進



目標 4-9 商工業者への「補助事業」取り組みの推進

強み・弱み

【強み】

- 小規模事業者の地道な販路開拓等の取り組みや、設備投資や生産性向上への経営改善に国施策と連携し支援しています。
- 高森町商工会青年部に後継者が多く加入しています。

【弱み】

- 町単独施策での事業者支援が十分ではありません。
- 高齢化、後継者不足、大型チェーン店の進出により、事業者が減少しています。

めざすまちの姿

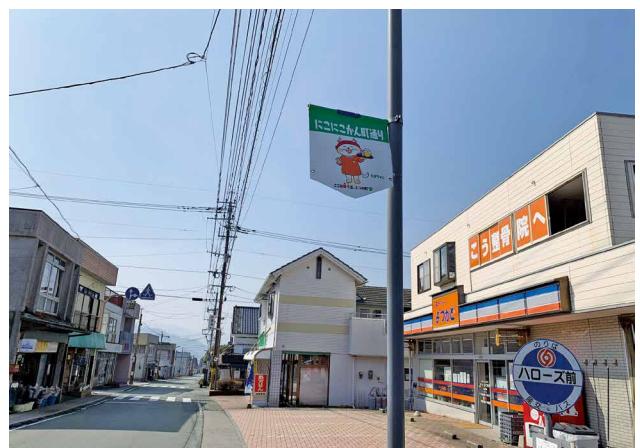
- 商工会と連携し事業者のニーズにマッチした支援が行われ、事業者の経済活動意欲が向上しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
商工会と連携した町独自事業者支援制度の創設数	1	3

具体的な取組み

1. 小規模事業者持続化補助金の採択・取り組みへのバックアップ
2. 商工会と連携した町独自の事業者支援創設
3. 地元産業後継者からの提案型事業制度創設への取り組み推進



目標 4-10 国選択無形民俗文化財「高森のにわか」による活力アップ

強み・弱み

【強み】

- 国選択無形民俗文化財「高森のにわか」をメインとする風鎮祭があります。
- 国選択無形民俗文化財の指定を受け、減少するにわか担い手確保への機運が高まっています。
- 町外への「高森のにわか」の出演依頼が増加しています。

【弱み】

- 未だ「高森のにわか」の知名度はまだまだ低いです。

めざすまちの姿

- 「高森のにわか」の継承が図られ、にわかを観覧するため、風鎮祭に訪れる観光客が増加し風鎮祭に活力が戻っています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
風鎮祭と連携した国選択無形民俗文化財登録イベントの開催	未実施	実施済
「高森のにわか」の町指定無形民俗文化財への指定	未指定	指定
「高森のにわか」の町外出演数	22回	30回

具体的な取組み

1. 「高森のにわか」の町指定無形民俗文化財・県指定無形民俗文化財認定に向けた取り組みの実施
2. 風鎮祭を含めた「高森のにわか」の全国へのPR、イベントの実施



目標 4-11 民間企業を活用した農商連携での特産品創生

強み・弱み

【強み】

- 施設園芸・露地野菜、花卉、米、畜産といった農業生産が盛んです。(再掲)
- 阿蘇地域が世界農業遺産に登録されるなど、阿蘇地域の農業が注目されています。
- 伝統的農産物（みさを大豆・鶴の子芋・ひごむらさき等）の継承と生産が続けられています。(再掲)

【弱み】

- 多様な農産物を加工して、特産品や加工品をつくる6次産業化が進んでいません。

めざすまちの姿

- 民間企業とタイアップした農商工連携での特産品が生産されています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
ブランド化協議会の設置 (再掲)	未実施	実施済
加工品(特産品)の開発数 (再掲)	0品目	3品目

具体的な取組み

1. 商工会、協定企業等との連携（農商工連携）による商品開発



基本目標 5 誇りと夢と元気を生み出す教育による「町づくり」

目標 5- 1 3つの戦略！「町あげて」・「風に乗る」・「風を興（おこ）す」

強み・弱み

【強み】

- コミュニティ・スクールを導入し、地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。
- 小学校からの英語教育導入など小中一貫教育を導入し、教育カリキュラムを強化しています。
- ICT環境が整備され、児童・生徒・教員に1人1台のタブレットPCを導入しています。
- 全ての町立学校が学校情報化先進校に認定され、様々な先進的事業を受託しています。
- 「高森ふるさと学」を小中一貫したカリキュラムの下で展開しています。



【弱み】

- 学校のニーズに合わせた支援ができる人材が少なく、人材の確保に苦慮しています。

めざすまちの姿

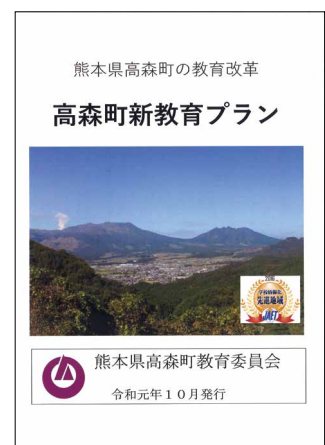
- 21世紀を生きぬく人材育成と国際化・情報化・少子化への対応が行われています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
高森町の教育を受けたいと転入する世帯数	1世帯	3世帯

具体的な取組み

1. 「地域とともにある学校づくり」の推進（社会に開かれた教育課程の確立）
2. 「小中一貫教育」・「幼保小中高一貫教育」による学びの連続性の確立と高森中央学園（義務教育学校）構想検討への着手
3. 「ICT教育の高森町」による教育の情報化の推進
4. 「たかもり英語教育」による学びのグローバル化の確立
5. 「たかもり・ふるさと学習」による豊かな心の醸成・キャリア教育の推進
6. ICT環境や学校設備等及び町費負担教職員継続による教育環境の整備の推進



目標5-2 新たな時代に求められる人材育成

強み・弱み

【強み】

- 高森高校への進学を促すための様々な取り組みを積極的に実施・推進しています。
- 高森高校が「スーパーグローバルハイスクール (SGLH)」の指定を受けています。
- 教育研究会の活性化を図り、教職員の資質向上を推進しています。

【弱み】

- 少子化の影響により高森高校の入学者数が伸び悩んでいます。

めざすまちの姿

- 高森高校との連携が町の施策として位置づけられ、将来に亘り持続可能な特色ある運営体制が強化されています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
高森高校への進学希望者を増やす為の共同施策の実施数	0	1

具体的な取組み

1. ICT教育や人間力と総合力を兼ね備える人材育成事業による中高連携の推進と県教育委員会と連携した高森高校への新科設置の取り組み推進
2. 教育研究会の活性化（学校の経営力と教員の力量向上）



目標5-3 命と人権を大切にする教育の充実

強み・弱み

【強み】

- 人権のまち高森として、町民全体で活動できる環境にあります。
- 「命を守る集会」など、学校単位でしっかりと考える機会を設けています。

【弱み】

- 人口減少による児童・生徒数の減少が進んでいます。
- スマートフォン等の普及により、命が軽んじられることが懸念されます。

めざすまちの姿

- 命と人権を大切にする住民が多く暮らし、ますます思いやりが溢れたまちになっています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
高森町人権同和教育推進協議会講演会来場者数	74人	100人以上
すまいるフェスタ来場者数	400人	630人

具体的な取組み

1. 自分を守る「安全教育」、災害の教訓を生かした「防災教育」、自他を尊重する「人権教育」の推進



目標 5-4 文化活動全般の充実

強み・弱み

【強み】

- 教育的価値の高い地域素材が多く存在しています。
- 高森の豊かな自然環境や文化的歴史を知る機会が多いです。
- 高森町の副読本「高森の心」が全戸へ配布されています。
- 各学校で「ふるさと学」を授業に盛り込んでいます。



【弱み】

- 児童生徒の文化、生活体験が質、量ともに減少している傾向にあります。
- 高森町の文化を継承する機会が減少しています。
- 高森町の文化を継承できる人材が不足しています。

めざすまちの姿

- 高森町を誇りに思い、自分の将来の夢を語る児童・生徒が育成されています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
ふるさと学の継続	70時間/年	継続実施
高森町史再編さんの実施	未実施	実施済

具体的な取組み

1. 新教育プランに基づいた高森ふるさと学の実施継続
2. 高森町史再編さんの実施と TPC による町史説明の実施



目標5-5 たかもり型公立図書館の設立

強み・弱み

【強み】

- 町内全域に光通信網（情報通信基盤施設）が整備されています。
- 本町の児童生徒に対し、タブレットPCの1人1台の貸与が完了しています。

【弱み】

- 児童生徒数の減少により、本の選定等に関して意見の多様性が難しくなっています。
- 人口減少により、図書館を建設した後の利用計画については厳しい状況が予想されます。

めざすまちの姿

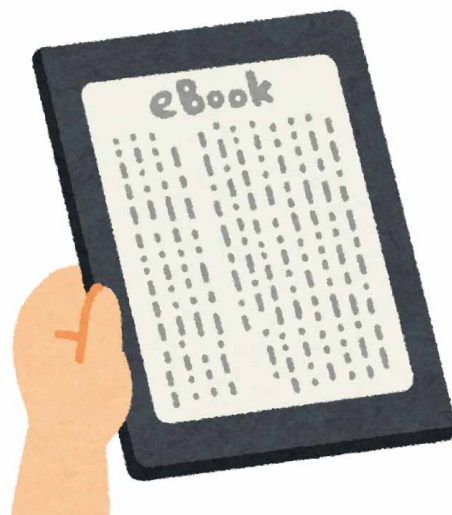
- ICTを活用した図書館の活用計画により、新しく人口規模に応じた図書館が設置されています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
たかもり型公立図書館の設置	未設置	設置済

具体的な取組み

1. ICT教育環境をフル活用した官民共同によるタブレット図書館の取り組みと、将来の人口規模を見据えた図書館の設置



目標 5-6 「町民総スポーツ社会」の充実

強み・弱み

【強み】

- 夏場に適したスポーツ環境が整っています。
- 屋内テニスコートがあります。
- 町立小中義務教育学校の施設が利用できます。
- 総合型地域スポーツクラブ高 SPO、スポーツ推進委員協議会、体育協会の活動により社会体育が活発化しています。

【弱み】

- 社会体育施設の老朽化が進んでいます。
- 社会体育指導者の確保に苦慮しています。



めざすまちの姿

- 町民がスポーツを通して、楽しさ・健康・地域のコミュニティ・活性化できるような環境があり、スポーツが産業として地域を活性化しています。
- 高 SPO の会員が専門的な知識を身に付け会員の指導を行う、循環的な活動スタイルになっています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
高 SPO の会員数	442 人	486 人

具体的な取組み

1. 社会体育関係団体が一体となった、高森町スポーツ推進計画に沿った実践活動の推進
2. 高 SPO の NPO 法人化による持続可能な体制への移行
3. プロスポーツクラブ（ロアッソ熊本等）との連携による町内スポーツ環境の拡充
4. ボッチャ等のニュースポーツ推進による障がい者スポーツの実践拡大



基本目標 6 健康いきいき&子育て楽しい「町づくり」

目標6-1 「わかりやすい・親しみやすい・支援しやすい体制」の構築

強み・弱み

【強み】

- TPC や広報たかもりを活用し、福祉行政をわかりやすくしています。
- 保健師5名、管理栄養士1名、栄養士1名の医療専門職が配置されています。
- 顔の見える身近で親身な接遇ができます。
- 役場敷地内に地域包括支援センターを配置し、困りごとの相談に対応しています。

【弱み】

- 増加傾向にある外国人住民に対する案内が不十分です。(再掲)
- 移住者等の新規住民への対応が足りていません。
- 情報通信基盤を活用した福祉行政サービスが不十分です。
- 閉庁日の行政サービスができていません。

めざすまちの姿

- 福祉や健康に関する窓口がワンストップ形式で整備されていて、わかりやすく親しみのある窓口対応ができています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
保健・医療・介護の多職種連携によるワンストップ窓口の整備	未整備	整備済

具体的な取組み

1. 行政組織再編の実施による、「わかりやすい・親しみやすい・支援しやすい」福祉の向上と介護予防体制の推進
2. 「わかりやすい・親しみやすい・支援しやすい」体制推進のため高森町社会福祉協議会との人事交流の実施

地域包括支援センター



目標 6-2 「第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）」 + 生活習慣病対策 + 他健康づくり施策の推進

強み・弱み

【強み】

- 特定健診の結果やレセプト等のデータ、介護保険の認定状況等を分析・活用できます。
- 生活習慣病健診（特定健診）における高森町独自の追加項目が充実しています。
- 生活習慣病重症化予防のための2次精密検査を実施しています。
- 特定保健指導を町の保健師によって個別で受けられる体制が構築されています。



【弱み】

- 保健師や管理栄養士の人材不足や育成といった課題があります。
- 町民の健康意識が低い状態にあります。
- 高森町は高血糖状態にある人が多く、糖尿病による入院医療費が県内でも高く重症化しやすい傾向にあります。



めざまちの姿

- 健康意識啓発により若い頃から自らの健康に関心を持ち、将来の医療費抑制や介護予防につながる健康的な生活習慣が身についており、重症化につながるメタボリックシンドローム該当者の割合が減少しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
第2期データヘルス計画における メタボリックシンドローム該当者の割合	19.5%	16.0%
HbA1c6.5 (治療中7.0) 以上者の割合	11.7%	7.0%

※現状実績値と目標値及び両年度は第2期データヘルス計画の目標値

※HbA1とは、血糖の状態を測るための検査項目の意味

具体的な取組み

1. 集落支援員制度を活用した健康推進員制度の創設による人材育成を行い、保健師、民生委員との訪問活動等の共同活動による健康意識啓発活動や特定健診等の受診勧奨の推進
2. 健診・医療・介護情報を活用・分析し、予防可能な疾患、費用の実態等の見える化と情報提供
3. 住民が自らの健康状態を認識できるように、健診・2次精密検査等の拡大と、保健師・栄養士による訪問活動等保健指導による重症化予防の実施



目標6-3 各種健診・がん検診の受診率向上の推進と疾病予防・重症化予防への取り組み

強み・弱み

【強み】

- 各種健診・がん検診を1日で受診できる複合集団健診を実施しています。
- 近隣の医療機関で特定健康診査を個別受診できる体制を構築しています。
(医療機関数：高森町4、南阿蘇村3、阿蘇市1、大津町1)
- 早期介入事業として39歳以下の若年層健診を実施しています。
- 75歳以上の後期高齢者健診を実施しています。
- 45歳からの国保節目人間ドック受診費用助成事業を実施しています。



【弱み】

- 特定健康診査の受診率が国の示す目標値である60%に達していません。
- がん検診の受診率が低い傾向にあります。
- 個別特定健診を受診できる医療機関が近隣に限定されています。
- 40代の特定健康診査受診率が低い傾向にあります。

めざすまちの姿

- 各種健（検）診を早期からの受診しやすい体制が構築されています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
各がん検診受診率（別表参照）	別表1	別表1
要精密検査者医療機関受診率（別表参照）	別表2	別表2
特定健康診査受診率	52.4%	60.0%
特定保健指導実施率	62.3%	72.0%

※現状実績値と目標値及び両年度は第2期データヘルス計画の目標値

具体的な取り組み

1. 人間ドック助成対象者と助成金の拡充及び特定健診・がん検診の個別健（検）診の拡充による受診しやすい体制の強化





目標6-3 別表1

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
胃がん検診受診率	12%	20%
肺がん検診受診率	18%	
大腸がん検診受診率	18%	
子宮がん検診受診率	19%	
乳がん検診受診率	18%	

目標6-3 別表2

指標名	現状実績値 (2018年4月)	目標値 (2023年3月)
胃がん検診要精密検査者医療機関受診率	92.6%	95%
肺がん検診要精密検査者医療機関受診率	90.9%	
大腸がん検診要精密検査者医療機関受診率	71.1%	
子宮がん検診要精密検査者医療機関受診率	71.4%	

※各受診率の現状実績値は、本計画策定時点で集計中の為2018年の数値としています。

目標 6-4 地域医療確保対策による、安心して医療を受けられる体制の構築

強み・弱み

【強み】

- 町内に6つの医療機関があります。(医科4 歯科2)
- 町内医療機関が朋遊館で巡回診療を行っています。



【弱み】

- へき地医療のための人材が足りていません。
- 町内医療機関が町中心部に集中しているため無医地区・無歯科医地区があります。
- 町内医療機関の診療科が限定されています。(内科・外科・歯科)
- 無医地区では医療機関までの公共交通機関が少なく受診することが困難です。

めざすまちの姿

- 阿蘇地域全体での医療の確保対策により必要な時に必要な医療が受けられる暮らしを実現します。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
巡回診療を受診できる場所の増設	1 か所	2 か所

具体的な取組み

1. 介護予防事業と連携した無医地区への巡回診療所の増設



目標 6-5 高齢者が住み慣れた地域で健康に生活できる施策の推進

強み・弱み

【強み】

- 医療系、介護系の多職種が連携し、高齢者が安心して暮らせる仕組みづくりについて協議を行っています。
- 民間と町が連携し生活支援の充実を図っています。
- 介護施設が充実しています。

【弱み】

- 担い手側の人手が不足しています。
- 在宅介護サービス（訪問系）が不足しています。
- 独居老人、高齢夫婦のみ世帯が増加しています。（高齢化が進んでいます）
- 高齢化により自分で外出や買い物をするのが困難な方が増えてきています。



めざすまちの姿

- 高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って暮らすことができる「生涯現役社会」が実現しています。
- 町では、高齢者の自立支援や安全安心の確保に向け、医療・介護の各職種や自治会、民間企業、行政等との連携を強化し、見守りネットワークを構築しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
介護認定者数割合	19.4%	18.5%
重度化割合（要介護2以上）	69.8%	65.8%
地域福祉・健康推進員の配置（再掲）	0人	7人
地域介護予防活動の拡充	12会場	20会場
買い物支援協定の締結	未締結	締結

具体的な取組み

1. 「第3期高森町地域福祉プラン」と「第8期高森町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」による介護予防と、介護重度化割合低減への取り組み推進
2. 集落支援員制度を活用した福祉推進員制度の創設による人材育成の実施と、社会福祉協議会、民生委員との共同による見守り活動、地域民間事業者との連携による買い物支援等の生活支援取り組みの推進



目標 6-6 情報通信基盤を利用した外出支援・買い物支援体制の構築

強み・弱み ※目標2-1再掲

【強み】

- 町内全域に光通信網（情報通信基盤施設）が整備されています。
- 光通信網をフル活用した TPC による正しい情報の発信と共有を行っています。

【弱み】

- TPC、ICT 教育分野以外への施策活用が進んでいません。
- 専門職がないため、技術的な経験が不足しています。
- 高齢化により自分で外出や買い物をすることが困難な方が増えてきています。（再掲）

めざすまちの姿

- 情報通信基盤を活用した、高齢者の買い物支援の仕組みづくりが実現しています。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
全国の先進事例の町内展開への取り組み（地域情報化計画との連動）	未実施	実施済

具体的な取組み

1. 情報通信基盤を活用した高齢者の買い物支援についての全国先進事例の町内展開の実施

目標6-7 きめ細やかな子育て支援のための施策の推進

強み・弱み

【強み】

- 子育てしやすい自然環境があります。
- 待機児童がおらず、希望者が全員保育園・認定こども園に入園することができます。
- 障がい児施設があります。
- TPCによる情報発信ができます。
- 電子母子健康手帳（母子モ）が利用できます。
- 親と子の顔が見える環境ができています。
- 個別対応が充実しています。

【弱み】

- 保育士等の専門職員が不足しています。
- 乳幼児健診に適した施設がありません。
- 小児科病院がありません。

めざすまちの姿

- 子ども達が質の高い保育サービスを受けることができる町です。
- 妊娠・出産・子育て期にわたる切れ目ない支援体制がとれる町です。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
待機児童ゼロの継続	0人	継続
乳幼児健診受診率	96%	100%

具体的な取組み

1. 高森町子ども・子育て支援事業計画「高森町次世代育成支援行動計画」(新風まるプラン)によるきめ細やかな子育て、保育サービスの支援と、子育て世代に対してのわかりやすい情報の提供
2. 金融機関との協定(金利優遇等)により、子育て世代のみならず移住定住希望者への支援を実施



目標 6-8 ICT・AI を活用した子育て支援・健康づくりの電子化

強み・弱み

【強み】

- ICT 技術を活用できる情報通信基盤が整備されています。
- 光通信網をフル活用した TPC による正しい情報の発信と共有を行っています。

【弱み】

- 子育て支援・健康づくり電子化のための具体的なしくみが整備されていません。
- 電子化への対応が困難な高齢者が人口の大半を占めています。

めざすまちの姿

- ICT や AI を活用した電子媒体によるきめ細やかでわかりやすい子育てや健康づくりができる町です。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
子育て支援・健康づくりの電子媒体利用率	0%	60%

具体的な取組み

1. 母子手帳の電子化（電子母子健康手帳アプリ（母子モ））の実施と利用推進
2. 先行実施自治体（熊本市）の事例を取り入れた健康ポイント制度導入への取り組み推進



目標6-9 民間と連携した保育園運営による子育て支援の実施

強み・弱み

【強み】

- 待機児童がおらず、希望者が全員保育園・認定こども園に入園することが出来ます。
- 民間の保育園、認定こども園があり、町立保育園と連携して幼保小中連携事業を展開しています。
- 山間部にも町立保育園があり、どの地域の方も安心して保育園に児童を預けることが出来ます。

【弱み】

- 保育士等の専門職員が不足しています。

めざまちの姿

- 民間と連携した子育て支援を行う町です。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
町立保育園運営協議会設置による保育園運営検討方針の決定	未設置	設置～検討開始

具体的な取組み

1. 少子高齢化社会を見据えた町立保育園の運営を検討する協議会の設置



目標 6-10 地域一体型の子育て支援の充実化

強み・弱み

【強み】

- 待機児童がおらず、希望者が全員保育園・認定こども園に入園することが出来ます。(再掲)
- 民間の保育園、認定こども園があり、町立保育園と連携して幼保小中連携事業を展開しています。(再掲)
- 山間部にも町立保育園があり、どの地域の方も安心して保育園に児童を預けることが出来ます。(再掲)

【弱み】

- 子育て支援センターを運営していますがその機能は不十分です。
- 保育士等の専門職員が不足しています。(再掲)

めざすまちの姿

- 地域一体型の子育て支援によって、子育てしやすい環境が整備されている町です。

めざす目標

指標名	現状実績値 (2019年4月)	目標値 (2023年3月)
子育て支援センターへの専門人材の配置	0人	1人

具体的な取組み

1. 子育て支援センターへの専門人材の配置による地域の子育て家庭に対する育児支援の推進
2. 災害時等に子育て世代が避難する為の駐車場整備のための用地の確保





資料編



1 用語解説

掲載ページ	用語	解説
1	ジオパーク	「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所。阿蘇はユネスコ世界ジオパークにも認定されています。
1	世界農業遺産	世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を、国際連合食糧農業機関（FAO）が認定する制度です。世界で21ヶ国58地域、日本では11地域が認定されています。
1ほか	アクセス	接近・立ち入り。
1	パワースポット	地域に点在する特別な場所。具体的には草木が育ち、エネルギーを感じられる場所や、神聖な雰囲気漂っている場所、神仏が宿っている場所。高森町では、高森殿の杉、上色見熊座神社、草部吉見神社が観光スポットとして注目されています。
1	インフラ	インフラストラクチャーの略。生活や産業などの経済活動を営む上で不可欠な社会基盤と位置づけられ、公共の福祉のため整備・提供される施設の総称。例として道路や鉄道、上水道など。
2	くまもとアートポリスプロジェクト	熊本県が1988年（昭和63年）から続けている事業で、熊本県民の環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上を図るとともに、文化情報発信地としての熊本を目指して、後世に残る文化的資産を創造するためのプロジェクトです。
2ほか	ニーズ	需要。
3	トレッキング	自然を楽しみながら歩く山歩きのこと。
3ほか	Wi-Fi	パソコンやテレビ、スマートフォン、タブレット、ゲーム機などのインターネットネットワーク接続に対応した機器を、無線（ワイヤレス）でネットワークに接続する技術のこと。
3	DMO	DMOとは「Destination Management/Marketing Organization」の略称。観光地域づくりを持続的戦略的に推進し、牽引する専門性の高い組織・機能のこと。
3	キーパーソン	主要人物。
3	TAKAraMORI	高森町で2016年に一般社団法人として発足した地域版DMO。
4	ツーリズム	観光事業、旅行業、観光旅行。



掲載ページ	用語	解説
5	日本で最も美しい村	NPO 法人「日本で最も美しい村」連合。2005 年に発足し、小さくても素晴らしい地域資源や美しい景観を持つ村の存続を目的に、日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す運動を目的とする。
6	世界文化遺産	世界中の人たちの宝物として守っていく必要のある貴重な文化財（＝文化遺産）や自然（＝自然遺産）のこと。
7	くまもと国際マンガ CAMP	日本で漫画家デビューを目指す世界各地のクリエイターを高森に招致し、漫画の勉強のみならず、高森町の自然や、文化、観光地を漫画の題材として提供し、漫画を通じて高森の情報を世界へ発信し、外国人観光客を地域へ呼び込むためのイベント。
8	ユニバーサルデザイン	製品、建物、環境について、年齢、性別、障がい、言語等、人が持つそれぞれの違いを超えて、あらゆる人が利用できるようなはじめから考えてデザインすること。
9ほか	TPC（たかもりポイントチャンネル）	町内全域に整備された光通信網（情報通信基盤施設）をフル活用した全世帯で視聴が可能な光ケーブルテレビ。行政情報や議会中継、地域のイベント、学校行事、おしらせ等の情報を配信。平成 27 年 4 月開局。
9	オープンデータ	自治体オープンデータ。インターネット上に「データ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータ」で、誰でも許可されたルールの範囲内で自由に複製・加工や頒布などができるデータ。「人口統計」や「公共施設の場所」、災害時の「避難所」などをはじめとした様々な公共のデータを、ユーザ（住民、旅行者、民間企業など）が有効活用できる環境を整備することで、社会経済全体の発展に寄与することを目的とする。
9ほか	SNS	Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、ソーシャル（社会的な）ネットワーキング（繋がり）を提供するサービス。インターネットを介して人間関係を構築できるスマホ・パソコン用の Web サービスの総称。近年特に、情報の発信・共有・拡散といった機能が広く使用されている。
11ほか	スマートシティ	IoT（Internet of Things：モノのインターネット）の先端技術を用いて、基礎インフラと生活インフラ・サービスを効率的に管理・運営し、環境に配慮しながら、人々の生活の質を高め、継続的な経済発展を目的とした新しい自治体。
11	デジタル化	既存の文字や画像、信号（通常アナログ信号）などの情報を電子化すること。



掲載ページ	用語	解説
12 ほか	アプリ	アプリケーションソフトウェアの略。パソコンやスマートフォンなどに入れて使える様々なソフトウェア(サービスやメール、音楽プレイヤーなど)。
11 ほか	ICT	[Information and Communication Technology] の略語で「情報通信技術」という意味。通信技術を活用したコミュニケーションのこと。また、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。
13	データ放送	テレビ放送に文字、画像やレイアウト情報等のデジタルデータをのせてながす放送サービス。
13 他	IoT	[Internet of Things] の略語で「モノのインターネット」という意味。従来インターネットに接続されていなかった様々なモノ(センサー機器、駆動装置、建物、車、電子機器など)が、ネットワークを通じてインターネットに接続され、相互に情報交換をする仕組み。
13 他	AI	[Artificial Intelligence] の略語で「人工知能」という意味。コンピューターを使って、学習・推論・判断など人間の知能のはたらきを人工的に実現したもので、経験から学び、新たな入力に順応することができ、人間が行うように柔軟に目的を実行する機能。
14 ほか	ノウハウ	専門的・実用的な技術、知識、手法。
14	ユーチューブ	YouTube。アメリカに本社を置く世界最大の動画情報共有サービス。
15	PDCA サイクル	[Plan = 計画] [Do = 実行] [Check = 評価] [Action = 改善] の4つの英単語の頭文字で、P → D → C → A → P……を繰り返し、4つの段階を循環的に繰り返し行うことで、業務や目的を改善・効率化することができる方法。
17	ライフスタイル	生活の仕方。生活様式。
17	ワンストップ	一個所であらゆる相談に応じることで利用者の利便性を向上する。
18	スマート	(ここでは)「無駄がなく手際が良い」の意味。
18	地域おこし協力隊制度	人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持、強化を図ることを目的とした国の制度。



掲載ページ	用語	解説
18	集落支援員制度	地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が、地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員と連携し、集落への「目配り」として集落の巡回、状況把握等を実施する国の制度。
19	コミュニティ	共同体、地域社会。
20	RPA	「Robotic Process Automation」の略語で、これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業、もしくはより高度な作業を人間に代わってコンピューターで実施できるルールエンジンやAI、機械学習等を含む認知技術を活用した業務を代行・代替する取り組み。
20	チャットボット	人工知能を組み込んだコンピューターが人間に代わって対話する「自動会話プログラム」。
21ほか	パフォーマンス	ここでは、成績、成果の意味。
22	ワークライフバランス	「仕事と生活の調和」。一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会。
22	リテラシー	情報機器を利用して、情報の中から必要な情報を抜き出し、活用する能力。
22	ダイバーシティ	「多様性」の意味。人種や国籍、性別や年齢、障がい等の有無を問わずに、逆にその多様性を生かした組織を作り、組織の競争力を高めていこうという取り組み。
22	地域おこし企業人制度	地方公共団体が、三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かし、地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらう国のプログラム。
23	ふるさと納税制度	生まれた故郷や応援したい自治体に寄附ができる制度で、手続きをすると、寄附金のうち2,000円を超える部分については所得税の還付、住民税の控除が受けられると同時に、寄附者自身で寄附金の使い道を指定でき、地域の名産品などの返礼品を受けられることができる制度。
24	エンターテインメント	人を楽しませるもの。楽しむためのもの。娯楽。ここでは、漫画関連産業の意味。
24	クリエイター	創作者。ここでは、漫画家の意味。
24	リビングコスト	生計費。
24	アカデミー	学芸に関する教育・研究・各種養成機関。



掲載ページ	用語	解説
24	絵コンテ	映画・テレビドラマ制作に際し、各カットの画面構成を絵で示し、映像の流れをたどれるようにしたもの。
24	スクリーニング	映像作品の撮影前に用意される映像のイメージを具現化するための設計図にあたるイラスト・表。
24	インバウンド	訪日外国人旅行。
25	プラン	計画。
26	ネームバリュー	知名度。
29	チャンネル	経路、道筋、ルート。
29	日本型直接支払制度	農業の持つ多面的機能（国土保全、水源かん養、自然環境の保全、景観の保全など）の維持・発揮のため、地域活動や営農活動に対して行われる国の支援制度で、多面的機能支払制度、環境保全型農業直接支援対策、中山間地域等直接支払対策の総称。
30	農地バンク	農地中間管理機構が、貸したい農地・売りたい農地を集め、借りたい・買いたい経営者に提供していく仕組み。
31	阿蘇南郷檜	阿蘇地方で古くからこの地域で独自に育てられ、植え継がれてきた檜の挿し木品種。国内唯一の檜林業品種（基準品種）で、通直完満で病気に強いといった特性を持つ。
32	マッチ	見合う、適する。
32	バックアップ	後方支援。
35	タイアップ	協力、提携。
35	コミュニティ・スクール	学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組み。
35	カリキュラム	教育課程。
35	タブレット PC	薄い板状の本体に、タッチして操作が可能な液晶画面が組み込まれたパソコン。
35	グローバル化	国や地域を超えて世界的な結びつきが深まること。
35	キャリア教育	社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる教育。
36	スーパーグローバルハイスクール	「地域に根を張り、未来を拓く」をキーワードに、国際社会で通用する能力やグローバルな視点を持ちつつ、地域社会の活性化や発展に貢献する人材の育成を目指す高等学校を熊本県教育委員会が認定する制度。



掲載ページ	用語	解説
37	スマートフォン	画面を指で操作できるパソコンに近い作りの携帯電話のこと。
40	総合型地域 スポーツクラブ	誰もが、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。
42	レセプト	患者が受けた保険診療について、医療機関が保険者に請求する医療報酬の明細書。
42	メタボリック シンドローム	内臓脂肪の過剰な蓄積を原因として血液中の糖・脂質、血圧の数値が上り動脈硬化症を発生するリスクが高い状態。



2 人口動向分析

(1) 時系列による人口動向分析

本町の過去から現在に至る人口推移を把握した上で、自然増減及び社会増減の動向を分析します。

① 総人口及び年齢3区分別人口の推移と将来推計

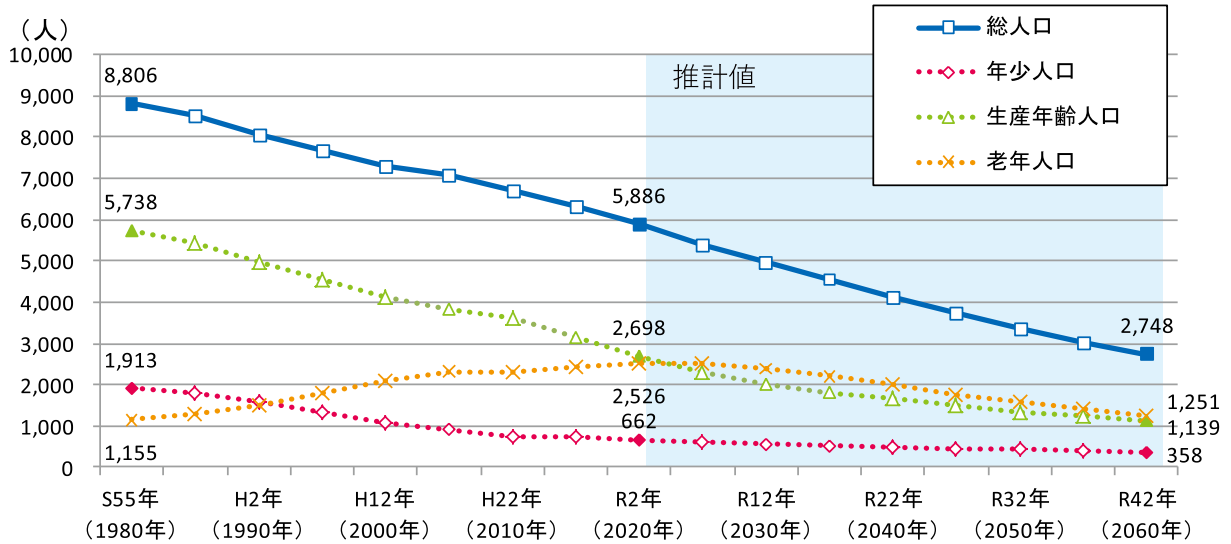
【総人口】

- 総人口は、昭和 55（1980）年から減少傾向。令和 42（2060）年の推計値は 2,748 人。
 - ・ 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、現在の傾向で人口が減少した場合、令和 42（2060）年には 2,748 人となり平成 27（2015）年の 6,325 人に比べ 56.6% 減少すると予測されています。

【年齢3区分別人口】

- 令和 42（2060）年には、平成 27（2015）年と比較して、生産年齢人口（15～64 歳）は 63.8% 減少し、年少人口（0～14 歳）が 50.7% 減少。
- 増加している老年人口（65 歳以上）も令和 2（2020）年以降は減少。
 - ・ 生産年齢人口は、総人口と同様に昭和 55（1980）年より、減少傾向が続いており、令和 42（2060）年には、平成 27（2015）年に比べ 63.8% 減少すると予測されています。
 - ・ 年少人口は、総人口と同様に昭和 55（1980）年より、減少傾向が続いており、令和 42（2060）年には、平成 27（2015）年に比べ 50.7% 減少すると予測されています。
 - ・ 老年人口は、令和 2（2020）年までは増加傾向にあるものの、その後は減少に転じ、令和 42（2060）年には、平成 27（2015）年に比べ 49.0% 減少すると予測されています。

■総人口及び年齢3区分人口の推移■



	S55年 (1980年)	S60年 (1985年)	H2年 (1990年)	H7年 (1995年)	H12年 (2000年)	H17年 (2005年)	H22年 (2010年)
総人口	8,806	8,531	8,069	7,703	7,300	7,081	6,716
年少人口	1,913	1,801	1,589	1,336	1,089	921	758
生産年齢人口	5,738	5,428	4,967	4,552	4,108	3,835	3,631
老年人口	1,155	1,302	1,513	1,815	2,103	2,325	2,327

	H27年 (2015年)	R2年 (2020年)	R7年 (2025年)	R12年 (2030年)	R17年 (2035年)	R22年 (2040年)	R27年 (2045年)
総人口	6,325	5,886	5,395	4,958	4,544	4,141	3,728
年少人口	725	662	605	552	513	486	452
生産年齢人口	3,148	2,698	2,285	2,015	1,818	1,660	1,500
老年人口	2,452	2,526	2,504	2,391	2,213	1,995	1,776

	R32年 (2050年)	R37年 (2055年)	R42年 (2060年)	減少率※
総人口	3,355	3,026	2,748	56.5%
年少人口	424	387	358	50.7%
生産年齢人口	1,352	1,240	1,139	63.8%
老年人口	1,579	1,398	1,251	49.0%

出典：(S55年(1980年)～H27年(2015年))「国勢調査(各年10月1日)」総務省
 (R2年(2020年)～R42年(2060年))「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供
 ワークシート(令和元年6月版)に基づく推計」

※減少率はR42年(2060年)とH27年(2015年)を比較したもの

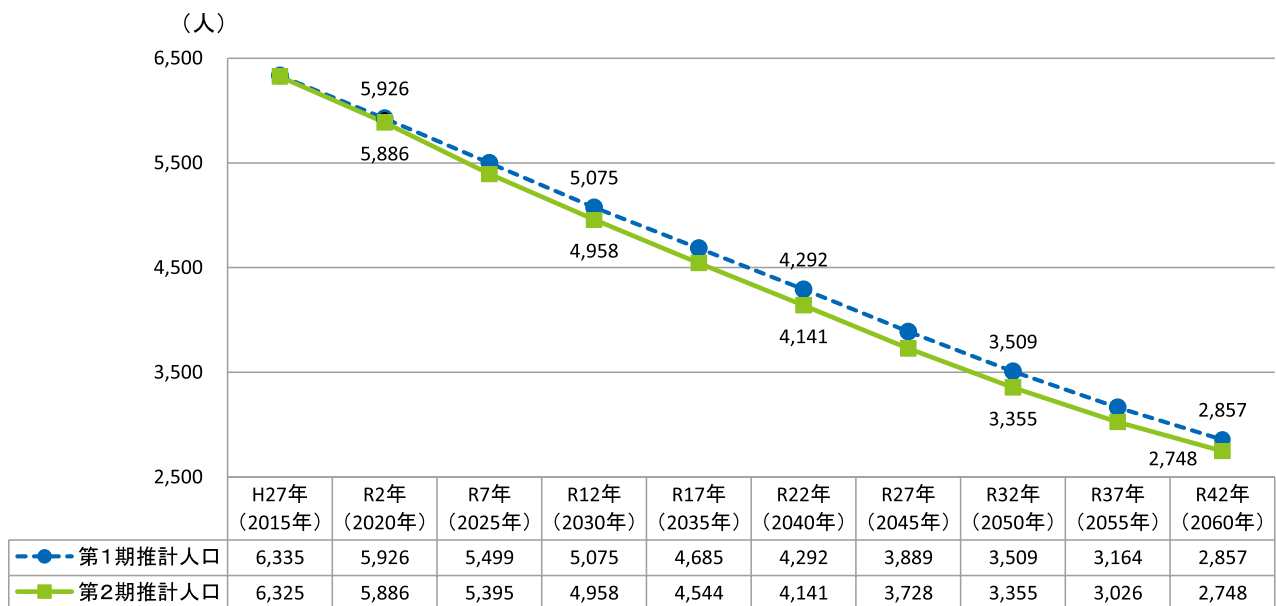
(2) 第1期人口ビジョンとの比較による検証

第2期人口ビジョンの策定に向け、平成31(2019)年6月に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局から人口推計を行う新たなワークシートが提供されたことから、第1期人口ビジョン策定時(平成26(2014)年10月)と同じ条件で推計した人口について比較・検証を行いました。

◆総人口

第2期の推計人口では、令和42(2060)年の推計人口が、第1期の2,857人に対し、第2期は2,748人となり、人口減少のスピードが速くなることが予想されます。

■第2期推計人口と第1期推計人口との比較(総人口)■



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別推計」準拠(まち・ひと・しごと創生本部提供)

第1期は平成25(2013)年推計、第2期は平成30(2018)年推計でいずれもワークシートの「パターン1」による

※2015年の第1期推計人口は推計値、第2期推計人口は実績値。

※以下、年齢3区分別人口、生産年齢人口男性及び女性20歳代~40歳代人口の出典は同様

◆年齢3区分別人口

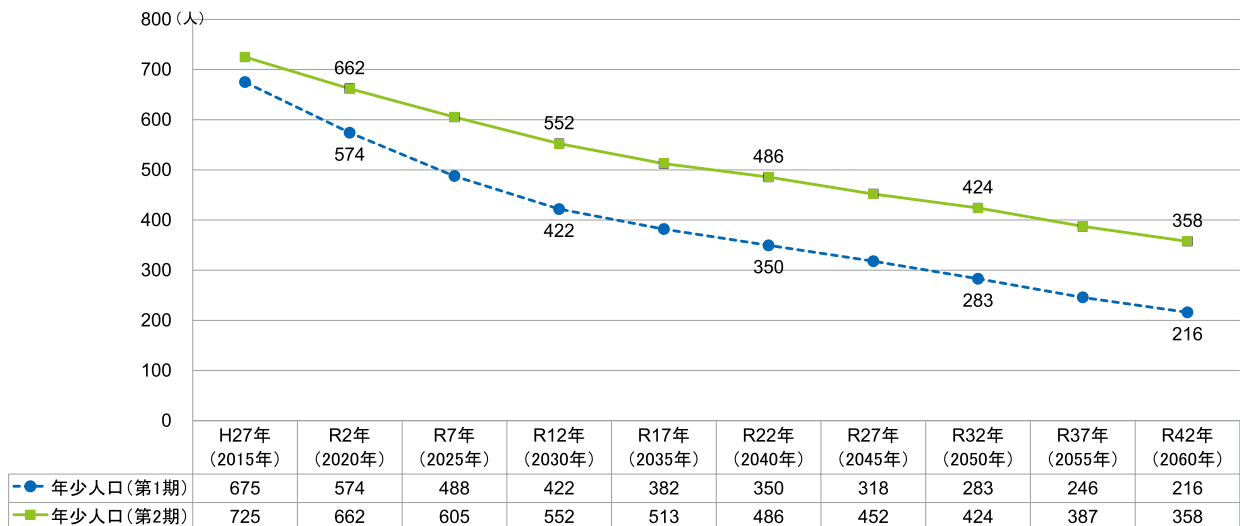
年齢3区分別人口をみると、年少人口の第2期推計人口は、第1期に比べ増加が予想され、令和42（2060）年には第1期に比べ142人増加することが予測されます。

生産年齢人口の第2期推計人口は、第1期に比べさらに減少すると予測されており、令和42（2060）年には第1期に比べ138人の減少が予測されます。

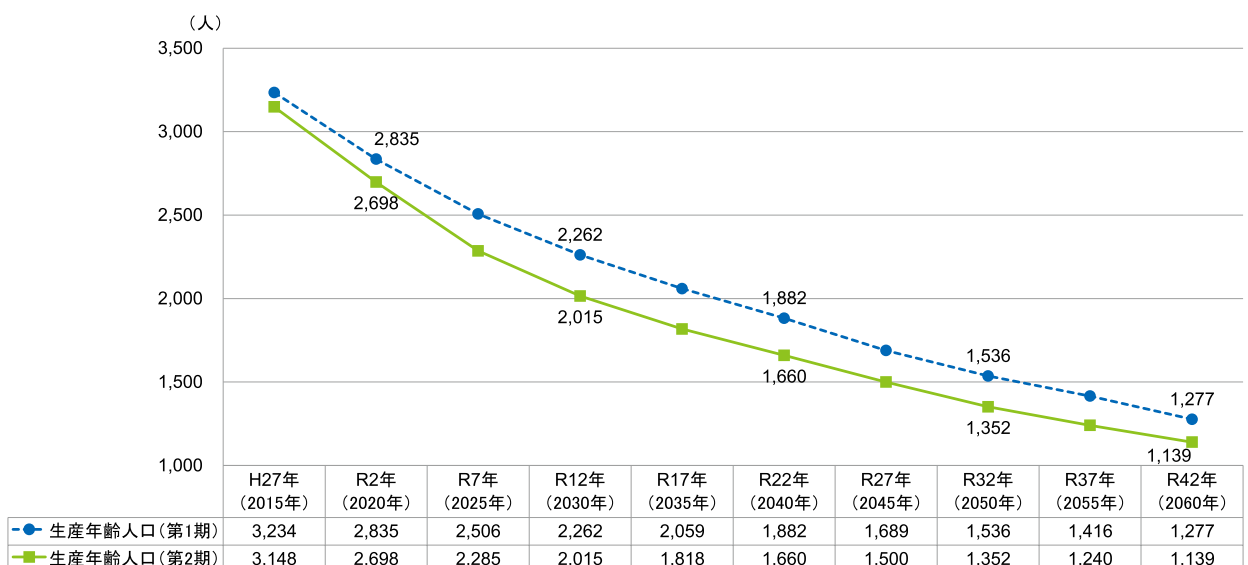
老年人口も令和12（2030）年以降、減少傾向となり、令和42（2060）年には第1期に比べ114人の減少が予測されます。

■第2期推計人口と第1期推計人口との比較（年齢3区分別推計人口）■

【年少人口（14歳以下）】



【生産年齢人口（15歳-64歳）】



【老年人口（65歳以上）】

